

- 地域のシンボルでもある「歌見の棚田」を次代に残すため、近隣集落を含め地域全体で農地の保全に取り組む。
- 中山間地域等直接支払交付金の棚田地域振興活動加算を活用し、佐渡棚田協議会、県棚田みらい応援団等と連携しながら都市農村交流や棚田米の販売強化を実施。
- 市民団体「UKUU」を核に、地域おこし協力隊や移住者が開業したレストラン等と連携し、交流人口の拡大に取り組む。

集落協定の概要

R6協定面積: 11.6ha
(うち田11.6ha)
R5交付金額: 390万円
(うち加算措置146万円)
R5配分割合: 個人配分50%
共同取組活動50%

協定参加者: 農業者19人
構成集落数: 3集落
開始年度: 平成12年度
多面的機能支払との重複: 有

【目指している将来像】

・棚田の維持を通じ、若者の農業への参画及び地域を応援してくれるファンづくりの活動を継続。
・交流等を通じ、棚田を含む地域全体の農業・漁業を盛り上げてくれるような人材の移住を促す。



【農業に参画する若者や移住者】

取組の背景・課題

- 歌見の棚田は、歌見、黒姫、虫崎の近隣3集落共同で管理を行っているが、いずれの集落も過疎化・少子高齢化が進み、後継者がいない中で棚田の耕作放棄地化が懸念されていた。
- 佐渡棚田協議会に令和3年から参画し、棚田を次代につなぐため、イベントを通じた島内外へのPRを開始。
- 5期対策への取組を契機に、若手農業者の有志を中心に歌見の棚田を未来につなぐ機運が高まった。

課題解決に向けた取組内容

- 令和元年度には新潟大学佐渡自然共生科学センターとの連携や、地域おこし協力隊による地域の農業・漁業のPRや交流拠点の整備により、棚田を含む地域の維持に向けた取り組みを開始。
- 令和2年には地域の若手農業者の有志が「棚田の文化と風景を次世代につなぐ」というミッションを掲げ、地域外の者も含む市民団体「UKUU」を設立。
島内外の企業・団体と連携の核として、歌見の棚田を含む内海府・内浦地域全体の都市農村交流の取り組みの活性化を図り、オンラインによる体験イベントの継続や、県棚田みらい応援団を通じた企業との連携など、関係人口の増加を図っている。
- 令和3年度には佐渡棚田協議会と連携し、島内外のイベントを通じて棚田の魅力の再発見と発信を行い、棚田米の販売強化の取り組みを開始。



【地域の食材を使ったPRイベント】

- 地域おこし協力隊と連携した地元の民話をモチーフにした「鬼の田植え」イベントや、移住者が開業したレストランでの棚田米の利用等、外部からの人材の活躍のほか、全国棚田サミット、企業との連携など多岐にわたる交流を通じて関係人口の増加が図られている。
- 今後は、体験に参加した者がイベント以外での棚田の草刈りや稲刈り等の作業に参加するなどの新たな保全の形につなげるとともに、この地域で生計が立てられるよう、棚田での米生産に加え、省力的な作物や特産品の開発等、地域の新たな価値を見つけ発信していくことが必要。

取組のプロセス

① 有志達による方針の策定

STEP1

- ・耕作放棄地の増加や耕作者の減少・高齢化に歯止めをかける為、中山間直払制度第5期への取組をきっかけに、解決策や将来像の模索を始める。

② 関係集落の合意形成

STEP2

- ・3集落での話し合いを繰り返し、棚田含む地域産業の収益性の向上や、若者・移住者を含めた地域産業に関わる人材の確保に取り組む意向を固める。

③ 外部人材の受入
地域振興組織の編成

STEP3

- ・地域おこし協力隊の受け入れ
- ・地域振興活動に取り組む任意団体「UKUU」の立ち上げ、行政・企業・外部人材と連携し、地域のPR・交流活動を開始。

④ 交流活動の発展

STEP4

- ・積極的な交流活動が地域の魅力を増幅させ、U・Iターンによる人材確保につながった。
- ・地域おこし協力隊の定着、新たな人材による地域産業の多角化を通じ、さらなる地域の発展が見込まれている。

活動写真等



【移住者が開業した地域食材を使用したレストラン】



【耕作放棄地や畦畔で収穫したヨモギの商品化の試行】

人や組織等の関係図

